

## 4月15日頃からの高温に対する農作物技術対策

令和5(2023)年4月10日

安足農業振興事務所

気象庁(4/6発表)の「高温に関する早期天候情報(関東甲信地方)」によると、向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため、平年並か高く、4月15日頃からの5日間はかなり高くなると予想されることから、農作物の適切な管理に努めましょう。

### I 作物

#### 1 水稲

- (1) 苗が徒長することが懸念されるため、育苗ハウスの換気を徹底するとともにかん水を極力控える。
- (2) 播種後出芽期に苗床の温度が高くなると、発芽障害が発生するので、遮光シート等を使用する等、高温対策を実施する。

### II 野菜

#### 1 野菜全般

- (1) 施設栽培(雨よけ栽培を含む)はできるだけ換気を行い、遮光資材を展張し施設内の温度を下げる。
- (2) かん水設備を備えたほ場では、乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (3) 育苗ほでは、乾燥しないようにこまめなかん水に努める。
- (4) 収穫した野菜は、できるだけ涼しい所に置き、鮮度を保つ。また、予冷庫があれば予冷庫に入れる。

#### 2 いちご

- (1) 収穫ハウスは、果実温度の上昇を最小限にするため、早朝に行く。
- (2) 親株育苗ほでは、乾燥しないように天候を見ながらかん水する。
- (3) 高設育苗等では、培地内が高温になり根が傷みやすくなるので、寒冷紗等を展張し培地内の温度を下げる。また、給液量が不足しないよう注意する。

### III 花き

#### 1 花き全般

- (1) ハウスは換気に努めるとともに、乾燥しないようにかん水する。
- (2) 植物が極端に萎れるときは、遮光を行う。
- (3) 夕方から夜間にハウス内の湿度が高くなるないように、天窓やカーテンの操作をする。